

NPO法人

久喜の自然を愛する会

会報

NO26 2016年6月

会のモットー

- 1 足元から自然を学ぼう
- 2 ^{いま}現在ある自然を次の世代に残そう

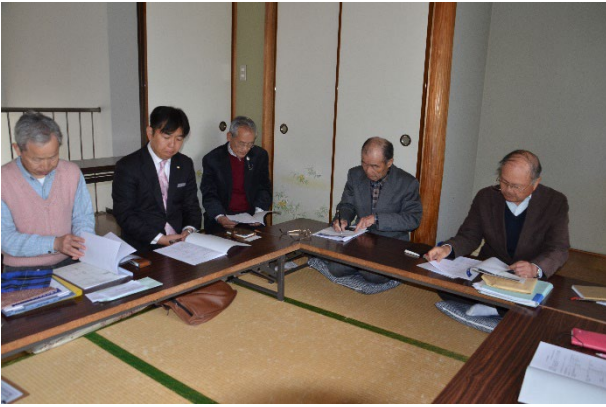
★★活動の記録（写真版）★★

★第11回NPO法人久喜の自然を愛する会総会

2016年4月16日(土) 太田集会所



記念撮影



★忘年会 2015年12月12日(土)



★七草粥を食べる会 2016年1月6日(水)



前日の七草採取



食べる前の記念撮影



おいしいおいしい

★第11回久喜市の野草写真展 2016年3月1日(火)～7日(月)



田中市長来場



お疲れ様でした

★キクイモ植え付け 2016年3月16日(水)



★久喜の里野草写真展 2016年3月11日(金)～6月6日(月)



飾り付け終了

★ふれあいウオーク菖蒲 2016年4月30日(土)



森下公民館前で記念撮影



ホウチャクソウ

タケノコ掘れた

★ふれあいウオーク新しい村 2016年5月22日(日)



記念撮影



これはケキツネノボタンです





チョウジソウ



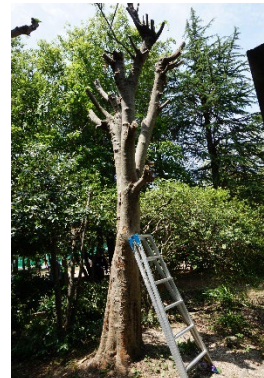
ハルタデ

★太田小ビオトープ再生活動

2016年6月8日



草取り



けやきの枝降ろし

★野草保護活動

東側

4月 7名



5月 8名



西側

4月 3名



5月 6名



巻頭言

NPO 法人久喜の自然を愛する会代表理事 藤浪康義

太田小のビオトープ再生活動が始まりました

去る6月8日太田小学校のビオトープ再生活動が行われました。

当日は学校側から穂村校長先生、加藤主幹教諭が参加され、PTAからは1年生の委員8名、太田小地区コミュ協から田中会長以下6名、本会から長谷川さんと私の2名が参加しました。

まずは基盤整備からという事で、周辺の除草と覆いかぶさる樺の伐採を行いました。樺の大木の伐採にはコミュ協の方たちが大きな力になってくれました。今後通路に水を流す等の課題が残っていますが、まずは出来るところから始める予定です。

太田小のビオトープはかなり古くから在ったようですが、これまで余り活用されなかったようです。現在は水路の水をくみ上げる循環装置も壊れ、樺に覆われ草も茂れない状態でした。

ビオトープが活用されない大きな理由は、それが学校教育の中でどう位置付けられるのか、役割がはっきりしないからだと思います。

ビオトープは地域の自然環境を凝縮して残し次の世代に伝えるものであり、子供たちが自然環境に興味関心を引き起こしその大切さを考える場であると思います。具体的には絶滅危惧種を中心とする希少植物の移植、水路にはメダカやカエル等の生物が住むものが理想だと思います。幸い吉羽には絶滅危惧種が今はまだ何種類も残っています。久喜市全体で考えるとデンジソウのように埼玉県の希少植物に指定されているものも在ります。これらの希少種を集中的に移植して保護できる場が必要とされています。その役割をビオトープが果たすべきだと思います。

それでは本会の野草保護地と同じではないかと考える会員もいるかも知れません。次の2点で異なります。

1. 学校ビオトープは子供たちの身近にあり、いつでも接する事が出来るという事
2. 吉羽の野草保護地は都市計画上道路がすぐそばを通ることになっており、当分はその心配はないとはいえ、将来的には保全の保証はないという事

勿論、現在の野草保護地の重要性は少しも損なわれるものではないが、将来的な事も考える必要があるのではないかと。

今後は月1回の定期活動を予定しています。太田小ビオトープ委員会の本会の委員は長谷川さんが引きうけてくれる事になりました。興味のある方はどしどし参加してください。

★★活動の記録★★ 2015年末～2016年前半

★年間反省会 2015年12月12日 17時～ 華屋与兵衛

12月12日(土)17時～、恒例となりました「年間反省会・忘年会」が、華屋与兵衛で開かれました。20名の出席でした。

初めに藤浪会長より、NPO法人となり活動は2年目でしたが、活動の範囲が広がる中、会員一同の協力に感謝の言葉がありました。次いで長須顧問から、熱心な会の活動が今後も末永く続けられる様にとの期待が述べられました。

司会から、「年間の反省会であり、良い機会でありますので互いに今年度の活動を振り返り、楽しかった思い出や、これからの会のより良い発展の為に、忌憚の無い意見を頂戴したい」との提案があり、順次会員から発言がありました。

大方の感じ方は「良かった楽しかった」でしたが、「野草保護やゆうゆうへのより多くの参加が欲しい」等でした。

個別では

- ・一般の参加者がもう少し増えるように(広報のあり方に工夫を、ふれあいウオークの場所を変えて欲しい、例として☆新しい村☆栗橋☆菖蒲等)
- ・栃木「蔵の街」のバス旅行、散策楽しかった(バス旅行を増やす)
- ・小学校放課後子供教室(ゆうゆう)、手伝いに参加して楽しくて勉強になった。「ザリガニつり」「どんぐり遊び」「七草摘み・七草粥を食べる」「葉や実のはたらきと不思議」観察会には無い、野草の生態等が学べる等でした。

アツと言う間の2時間でしたが、会員同士の親睦を一層深め、新しい年の活動に期待を膨らませながら散会となりました。

感想

年間反省会は会員の考えを汲み上げる大切な機会だと思いました。活動を通して感じた会員の声を、会の活動に反映させる事は、会の発展にとって重要な会合と認識出来ました。来年度の活動計画に立案に役立てたいものと思いました。

★七草粥を食べる会 2016年1月6日 9時～ 太田集会所

平成28年1月6日水曜日、新しい年を迎えての会の活動、第一弾「七草粥を食べる会」を太田集会所で開きました。会員21名に、「広報くき」や「生活情報誌クッキーズ」を見ての一般参加者5名を加え総勢26名の盛会となりました。

前日の5日には「七草」摘みを行いました。好天に恵まれ、かつてない13名が集まりました。10時ロヂャース駐車場に集合し、事前に調べておいた場所に3台の車に分乗して採取でした。集める場所は毎年変化いたします。環境の変化を感じると共に、どんな環境変化にも耐えて育つ野草の逞しさに、皆で感動を頂きながら採取できました。そのなかの一品のホトケノザだけは、会友さんが、昨年種を採取しプランターで育てた物でした。いつもは少し離れた所久喜まで訪ねていたのですが、お陰さまで今年は小1時間で5品「ナズナ、ハコベ・ゴギョウ・セリ・ホトケノザ」を揃える事が出来ました。

さて当日です。集めた七草を、全員でいつもと同じく「ワイワイガヤガヤ」と楽しい粥作りでした。いつもと少し違ったのは「美味しい七草粥の作り方レシピ」に沿い、丁寧に炊いた粥でした。米1に対して水9を計量カップで慎重に測り、煮込むのは50分、餅・蕪・大根は少し早めに鍋に投入、他の七

草は火を止めてから入れる等でした。約1時間、粥完成！膳が整い会食でした。

長須顧問より、七草に関する歴史や文化、七草にかけた先人の想い、ナズナやタビラコのこの時期だからこそ七草の栄養価を学び、いただく心を高めての会食でした。ロ々に「今年が一番美味しい！」の声が出た食事会でした。大鍋3つ空っぽとなる盛況さでした。

参加された会員さんの「この会は、心なごむ・・・」の声を聴き会員一同共感、同志の無病息災を念じながら散会となりました。

追伸

会員さんより、お米・餅・蕪大根・梅干・菊芋味噌漬け他等多くを頂戴致しました。感謝致します。

★久喜市の野草写真展 2016年3月1日～7日中央公民館1F

「第11回久喜市の野草写真展」は、3月1日(火)～3月7日(月)迄、中央公民館1階ロビーにて開催されました。今年のテーマは「食べられる野草」です。総出展数72点(15名)で、その中で絶滅危惧種が15点、食べられる野草が42点です。

テーマが「食べられる野草」でしたので、展示してある鉢植えの春の七草(セリ、ナズナ、ゴギョウ(ハハコグサ)、ハコベラ(ハコベ)、ホトケノザ、スズナ(カブ)、スズシロ(ダイコン))が大活躍でした。鉢植えの七草を指差して、次の様な説明を何度かしました。「ゴギョウとはハハコグサのことで身近にありますね。ホトケノザはコオニタビラコのことで、現在ホトケノザと呼ばれている野草(作品番号70)とは全く別のものです。ナズナとはペンペン草の事です。」又、多くの方が、「この野草も食べられるの！」と驚いていました。

キクイモのコーナーは人気がありました。キクイモの味噌漬けや酢漬けの試食を進めますと、ほとんどの方が最初はもの珍しそうでしたが、口に入れてみると「おいしい」と言っておられました。

田中市長、井上議長、柿沼教育長が来場され、会員の説明に対して熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

2017年の野草写真展のテーマは外来種です。多くの方の出展をお待ちしています。

● 第11回久喜市の野草写真展にての会員の感想文

白石みね子記

「久喜の自然を愛する会」の写真展も11回目となりました。盛況の内に終わった写真展の中で、特に印象的だった入場者の事についてお知らせ致します。

その方は2度来場されました。2度目の折、自宅に芽生えた2～3種の野草を持参され質問されました。折良く居合わせた長須先生が説明する事になり、これも幸いでした。説明では、植物は特に芽生えの頃の姿と成長した姿とがかけ離れているために、経験を積まないと見分けるのが難しいとの事でした。この小さなエピソードは私達に何と大きなおみやげをもたらした事でしょう。

タンポポの綿毛が風に放たれるあの瞬間を思わせる出来事でした。

私達はこれからも皆で楽しく進んでまいりましょう。会員お一人お一人が小さなタンポポの種子として。

《 関連新聞記事 》

埼玉新聞3月6日

埼玉新聞3月11日

★キクイモ植え付け 2016年3月16日

キクイモは血糖値を抑える効果があると言われ、最近注目されている食材です。秋の収穫を期待しつつ植え付けを行いました。

★久喜の里野草写真展 2016年3月11日～6月6日

特別養護老人ホーム「久喜の里」で野草写真展が開かれました。これは久喜市中央公民館で会主催の野草写真展が3月7日に終了、展示作品のうち60点を「久喜の里」に移動し展示したものです。写真の展示は3月11日に会員4名で飾り付けを行い、6月6日までの2月余り施設を利用される皆さまに野草の写真を見て楽しんでもらいました。自然に触れることが少ない利用者の皆さまに野草写真を通じて自然を感じていただけた事と思います。

★NPO法人久喜の自然を愛する会第12回総会と懇親会

2016年4月16日 9時～ 太田集会所

《 総 会 》

28年4月16日(水)太田集会所にて、第12回NPO法人久喜の自然を愛する会総会&懇親会が、会員の過半数を上回る27名と多数の出席で開催となりました。

挨拶で藤浪会長は、会設立以来の出来事である会員の過半数を超える出席に、心からの感謝と喜びの発言があつての開会でした。総会は議題に沿い27年度の活動報告と会計の報告・裁決、28年度の活動計画と活動予算の提案・裁決、28年度の役員選出でしたが、いずれも多数の賛成をいただき総て可決承認されました。

活動計画には、昨年末の年間反省会で出された会員さんの意向を反映した事業が盛り込まれています。「宮代の新しい村へのふれあいウォーク」5年ぶり復活「菖蒲のふれあいウォーク」等です。活動分野の広がりに伴う、野草の保護活動や小学校(ゆうゆう)活動への会員への協力要請がありました。

《 懇親会 》

野草の天麩羅と菊芋の炊込みご飯を頂きました。天麩羅の材料は、前日の15日(火)会員4名で、所久喜(野草保護地)で行いました。「ノビル・フキ・ヤブカンゾウ・クコ・イタドリ・タンポポ・ヨモギ・カラスノエンドウ・アサズキ・カキドウシ(吉羽天神社)・セイタカアワダチソウ」の11種でしたが、1時間程で採取出来ました。此のたびの天麩羅で最も注目を集めたのは「セイタカアワダチソウ」でしたが、みな様に怪しげな想いで、恐る恐る口にしましたが「結構行ける」との初体験の時でした。参加者一同、久喜の自然豊かさを味わいながら、28年度の活動に希望と期待を高め閉会いたしました。

★野草観察ふれあいウォーク「菖蒲」 2016年4月30日

素晴らしい天候のもと、菖蒲の森下公民館に9時30分集合。参加者は会員23名(会員の家族1名を含む)と一般参加15名です。今回の観察は公民館広場向前の道路を渡り、川沿いに行き神明神社に出て、参道を通り天王山塚古墳まで行き、森下公民館に戻るコースです。

長須先生より、「短い時間で観察を行いますので、資料を使って説明します。まず、この資料で野草を確認し、憶える事はその後でよいので、自然を実感してください。」の説明を受け、観察会はスタートし

ました。公民館広場で、長須先生から、「コメツブツメクサは葉が3枚でひとつ、マメ科の特徴です。オオジシバリは花が大きいのでタンポポと間違える人がいます。オオジシバリは主に湿った所にあります。」の説明がありました。

グラウンド前の道路を渡り、少し歩くと川に出ます。川の右岸に沿い上流へ向かう。すぐに絶滅危惧種のノウルシが沢山見られる。先生より「肌に触れない事。炎症を起こします。」の注意がありました。クズはアメリカでは護岸工事に使われたとの事。やがて、一面にシロバナタンポポが咲いている場所がありました。この近くで育った藤浪代表は幼い時に、この白いタンポポをよく見ていたので、タンポポは白い花だと思ったそうです。

しばらく歩き、橋を渡る。橋の付近から上流にかけ、オオクサモが川一面に繁殖している。また、この付近で紫の花をつけたショカツサイが見られた。しばらく歩くと神明神社につきました。神明神社は、550メートルある参道を持ち、非常に立派な社殿です。久喜市教育委員会が建てた神社の由来、来歴などを記載した案内板を見ると、創立は景行天皇（12代天皇で日本武尊の父）の時と書かれています。長い参道を南に向かうと、参道の脇にウラシマソウ・アマチャズル・サルトリイバラなど珍しい野草を見る事が出来ました。

参道を抜けると間もなく天王山塚古墳に到着です。ここでは、珍しいハウチャクソウ（宝鐸草）が生息しています。名前の由来は、花の形や垂れ下がる姿が、お寺の軒先に吊り下げられている鐘形の飾り「宝鐸（ほうちやく）」に似ているからだそうです。天王山塚古墳は全長100mを超す前方後円墳で、昭和6年に埼玉県指定史跡になっています。久喜に、こんなに大きな古墳があるのかと驚きました。古墳の頂上は久喜市内で一番の標高だそうです。古墳に登るとタケノコが生えており、お土産にした方もいたようです。森下公民館に戻る途中、カスマグサが見られました。

森下公民館のグラウンドに座っての参加者の感想スピーチは、時間が無かったので会員以外の方のみとしました。最後に藤浪代表より、次の挨拶があり、楽しい観察会は無事に終了しました。

ウォーキングで、この花何かな、と思うと楽しくなります。次回は5月22日に宮代の新しい村で行います。次回も参加してください。入会したい人は残ってください。

《 当日出席者の感想 》

島田ゆうこ様 ここから5分ぐらいの、すぐ近くにすんでいます。この辺（森下公民館）はよく歩いています。古墳に行ったのは初めてでした。10種ぐらいの植物をおぼえました。

佐久間様 楽しかったです。

古沢様 近くに住んでいます。この辺は散歩コースです。ハウチャクソウをおぼえました。

間宮様 野草には関心はありました。

関根様 近くに住んでいます。栢山小学校の時、天王山古墳には遠足で行きました。今日は楽しかったです。

井上（小学校5年生）様 いろんな植物を見る事ができて楽しかった。

小川様 庭には雑草がたくさん生えています。

宮城様 カスマグサ、スズメノエンドウ、カラスノエンドウの違いがわかりました。

杉村様 名を知ることで自然が身近に感じられた。今晚はクズの芽を天ぷらにしたいです。

斉藤様 カスマグサが確認出来て、ありがとうございました。

玉川様 神明神社、天王山古墳は2回目です。花の名前を覚えた。ありがとうございました。

蓮見様 市民特派員をしている。今回のふれあいウォークは久喜広報の乗らなければ、久喜のホームページになります。

島田（夫）様 楽しいウォーキングでした。これからも参加したいです。

島田(妻)様 息子が長須先生が校長先生の時にお世話になりました。庭には野草が沢山生えています。

1/3は憶えました。

《 当日の主な野草 》

ムラサキサギゴケ・オオジシバリ・セイヨウタンポポ・オランダミミナグサ・キツネアザミ・シロツメクサ・スズメノカタビラ・オオイヌノフグリ・コメツブツメクサ・ハルジオン・カラスノエンドウ・ノゲシ(ハルノノゲシ)・シロバナタンポポ・ノミノツヅリ・アメリカフウロ・セイヨウカラシナ・ニガクサ・ノウルシ・センニンソウ・オヤブジラミ・ヤエムグラ・カワヂシャ・オニタビラコ・ヒヨドリジョウゴ・オオアマナ・ショカツサイ・ハハコグサ・カラスムギ・ヤブニンジン・ウラシマソウ・サルトリイバラ・タチツボスミレ・ハコベ・ヘビイチゴ・セリ・コナスビ・シラヤマギク・スミレ・アマチャズル・クサノオウ・カスマグサ・マメグンバイナズナ

★野草保護活動 2016年4月から

野草保護活動は東側と西側の2か所で4月から10月まで月の第4日曜日に行われている。

東側は吉羽地域内で、青毛堀と葛西用水が合流して古利根川になったところの右岸にある。対岸には昌平高校がある場所である。近くに吉羽天神があり毎月1回第4日曜日に、ここに集合して付近の野草を観察後に保護活動を行っている。この保護地では付近に生育している、絶滅危惧種等の希少植物を集めてミニ植物園的な形で保護活動を行っている。

西側は久喜菖蒲工業団地裏の中土手で主にヤブカンゾウを中心とした保護活動を行っている。

★県民参加生き物モニタリング調査 2014年5月～2016年3月

県民参加生き物モニタリング調査は平成26年5月から2年間行われた。東地区(吉羽天神～東地区野草保護地～古利根川と中落堀川の合流地点)と西地区(中土手)に分かれ、野草保護活動日やその他の日に、毎月植物と動物の調査を実施した。また、調査が旧久喜地区に偏っていたので、ふれあいウォーク「栗橋」の下見を行った時に、併せて生きものモニタリング調査を行い、データを追加した。

調査結果は①平成26年5月～平成26年12月までの調査データと②平成27年1月～平成27年12月までの調査データを県に報告した。

調査で確認された野草は、東地区が247種、西地区が175種、栗橋が77種で、全地区を通して301種でした。

調査を行った東地区は圏央道の側道工事と東口大通りの圏央道側道までの延長工事が始まりました。工事が完了すると、多くの車が走り、住宅が建ったりし、地域の自然環境は一変します。このような時期に調査した記録が県に残される事は非常に意義のあることと思います。

★野草観察ふれあいウォーク「新しい村」 2016年5月22日

ことし2回目のふれあいウォークも好天に恵まれ、一般参加者16名、会員21名(家族1名を含む)、合わせて37名の参加者となりました。東武線久喜駅には半数の18名が8時半に集合し、東武動物公園駅から新しい村まで歩き、新しい村の広場で現地集合の人たちと合流しました。

今回は、新しい村の広場から調整池の畔を回り川沿いにほっつけ(堀上)田の保護地を歩いた後、山崎山を突き抜けて広場に戻る回遊コースとしました。比較的散策距離が短かったので、ゆっくり植物を観察することができたと思います。

笠原小学校前の堀にはコウホネの黄色い花が咲き、保護地では、ミゾコウジュやアヤメ、ハタケニラの花が咲いていました。フジバカマやノカンゾウ、ナガボノシロワレモコウ、ナルコユリ、コオニユリ

は生き生きと葉を茂らせ、花時が楽しみです。埼玉県東北部では一般的なワタラセツリフネソウやハンゲショウなどの絶滅危惧種も保護地ならではの生息です。圧巻は藍紫色のチョウジソウの花の群落。この小川にヘイケボタルの幼虫が放たれるそうで、6月中旬から暗闇でのお楽しみとなります。なおチョウジソウはアルカロイドを含み有毒とのことなので要注意です。

山崎山は見事に雑木林が残され、クヌギやコナラ、イヌシデ、ウワミズザクラなどの広葉樹の林下には小笹が繁茂し、シュンランやミズヒキ、オニドコロ等々多種の草々もみられました。これも里山を守る環境保全活動の成果で、小鳥のさえずりも賑やかでした。近くではカワセミも見られるそうです。(青毛堀川でも見られます。)

長須先生の「シオカラトンボ」と「ムギワラトノボ」の関係や、「ハルタデ」か「サナエタデ」かの見分け方、「ケキツネノボタン」の特徴など、図鑑にはなかなか載っていない説明に、毎回興味が尽きません。

参加者の声として、「観察会によく参加しているが、植物の名前を憶えられないので、また参加する」というのが印象的でした。「忘れる前に覚えられない」という笑い話も。

《 当日出席者の感想 》

早坂さん 今年で3年目です。少しずつ覚えている。つぼみオオバコがよく分かった。

新しい村に来るのは3回目になる。いつ来てもいい所だ。

木下さん 今日はチョウジソウがきれいだ。下見のときは薄紫できれいでした。1週間で花が変わった。

原さん ウォーターマッシュルーム前から何かと思っていた。名前が覚えた。ワレモコウでシロワレモコウがはじめて勉強になった。

持田さん はじめて参加した。前から野草を見るのは好きでした。図鑑ではいい加減になる。今日は勉強になりありがとう。

齊藤さん ウシハコベ、めしべ拡大でよく分かった。チョウジソウ、ホタルと合わせてこれだけ見れるのはよかった。山崎山の自然が見えてよかった。

飛高さん 楽しい時間を過ごした。以前は何回か参加した。これからも参加する。長く参加することは覚えられない事です。

島田実さん 前回から参加した。オオヤマトンボ、シオカラトンボ等トンボが良かった。

島田和子さん 覚えられないのが悩みです。少しずつ覚えたい。前回からこれは何だったかを覚えるのが楽しみです。

白石さん 昨日草刈りで痛くて休もうと思った。ウォーターマッシュルームがよかった。

トンボ博士と一緒によかった。覚えられないように参加したい。

板井茂さん こんなに野草があるとは思わなかった。次回も参加したい。

板井晴代さん はじめて参加した。家の周りに小さい野草がある。今回の資料をみて散歩したい。

有賀さん 中々参加できなかった。歩くようにすると草花に興味を覚える。歩くにも興味と楽しさがました。

矢作さん 今回友人と2人で参加したが久喜の方が参加できなくなり迷ったが来てよかった。庭にある野草を知りたいと思って参加した。

栗田さん白石さん

近所に草がある。ひとつひとつ見るときれいだ。可愛いけど名前が分からない、けど今日はよく分かった。チョウジソウが素敵だ。知らない花は今回でよく参考になった。

川野さん 今日は楽しかった。資料の内4分の1から3分の1しか分からなかった。観察会でいろんな種類があることが分かった。トキワハゼと？2つだけきちんと分かってよかった。

- 小野木さん 全く覚えられなかった。3つ4つは分かった。次回も参加する。
- 島田さん ニワゼキショウ、カタバミと見て触って覚えられた。又参加したい。
- 矢野さん 新しい村の直売所には来ていた。歩けると聞いていた。今回は楽しみにしていた。キツネノボタン、ウシハコベ今度は見分けがついたと思った。アシ笛がよかった。
- 簾内さん 花の名は覚えたかと思うとすぐ忘れてしまう。今晚新しい村でホタルの幼虫を放流します。6月18日19日ホタルの観賞ができます。
- 花野さん 長くいます。セリ、ウドとかは見つけます。今日はトンボが印象的でした。
- 加藤さん 一般参加で2回目です。図書館へは来るがこんなに野草が残っていて、びっくりです。
- 平尾さん 新しい村は始めて、よかった。チョウジソウがよく感激です。シュンランがよかった。
- 清水さん 隣町にこんなに自然がいっぱい残っている。チョウジソウがよかった。
- 佐久間さん 2回目です。今日も楽しかった。
- 松本さん トンボがよかった。シオカラトンボが雄でムギワラトンボが雌で同じということをはじめて知ってよかった。
- 塚本さん 久喜から来ました。こんないいところにあるのか！ コウホネ、ハンゲショウがよかった。
- 長谷川孝夫さん 久喜から来た。農園をしている。ハコベと戦っている。ウシハコベを勉強した。早速ウシハコベかハコベか勉強したい。
- 長谷川幹子さん チョウジソウがよかった。
- 間宮さん 資料がよく出来ていた。事前に見ていてどこに何があるのか分かり、参考になった。長須先生が耳にタコが出来るほど教えてくれてよかった。
- 宮川さん やっと着いた。こんなにいい自然があるのか感心している。チョウジソウがあるのがよかった。今日はいい勉強になった。
- 藤浪会長 12年目になった。めずらしいところに行こうという事で山崎山になった。資料の内絶滅危惧種はコウホネ、チョウジソウ、ナガボノシロワレモコウ、ハンゲショウ、フジバカマ、ミゾコウジュ、ワタラセツリフネソウです。
(以下絶滅危惧種の話がされた。)
- 長須顧問 身近にある自然に触れあうのが大事。草にゆかりのあるものを考えながら歩くことで充実、身近な野草の名前を知って歩くことが大事。宮代図書館の開館以後山崎山で春秋2回観察会をした。これからも自然との交流を深めて下さい。

《 当日の主な野草 》

ウオータマッシュルーム・セイヨウタンポポ・カントウタンポポ・ケキツネノボタン・ツボミオオバコ・キショウブ・コウホネ・オオイヌノフグリ・イヌガラシ・オオジシバリ・ヨシ・ムラサキカタバミ・アメリカフウロ・トキワハゼ・カタバミ・セリ・コオニタビラコ・オオバコ・ミゾコウジュ・ウシハコベ・マコモ・オランダミミナグサ・ナガボノシロワレモコウ・クサヨシ・ミゾソバ・チョウジソウ・コギシギシ・アゼナルコ・ノミノツヅリ・アレチギシギシ・スイカズラ・シュンラン・ヒトリシズカ・ヤマユリ・カキドオシ・ハルタデ

★太田小ビオトープ再生活動 2016年6月8日

太田小ビオトープの再生活動を始めました。詳細は巻頭言を参照してください。

★新入会員情報 (取扱注意)

宮城 眞 21-4611

佐久間純子 58-7145

島田 優子 090-7224-3696

嶋田 実 23-2507

嶋田 和子 23-2507

以上5名が我々の仲間になんしく加入されました。よろしくお願ひします。

現在会員数 46名

★今後の日程

放課後子供教室 2016年6月～2017年1月

ふれあいウオーク吉羽天神 9月11日(日) 9時00分

会員限定バスハイク 10月27日(木) 高尾山方面

年間反省会 12月17日(土) 華屋与兵衛

野草保護活動 東側 毎月第4日曜日 8時 吉羽天神集合

西側 毎月第4日曜日 8時 中土手

七草粥の会 2017年1月6日(金)

第12回「久喜市の野草写真展」 2017年3月1日～7日 久喜中央公民館

★編集後記

- * 関東甲信地方は6月5日に平年より3日早く梅雨入りした。神奈川県を除く関東6都県に水を供給する利根川水系ダムの水位が低下しており、当分まとまった雨が期待出来ず、梅雨入したのにもかかわらず利根川水系の取水制限が始まった。皆さま水は大切に使いましょう。
- * 会報26号は宮川と松本が編集しました。今後、皆様へ原稿のお願いいたしますので、よろしくお願ひ致します。

NPO法人久喜の自然を愛する会会報 NO26

2016年6月発行

発行 特定非営利活動法人久喜の自然を愛する会

発行人 藤浪 康義

編集人 宮川 俊治

松本 春勇